

日本語教育学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本語教育学概論	日本語教育の社会的役割	2	小河原 義朗	3	火曜3限
日本語教育学基礎演習	日本語教育のための日本語分析1	2	小河原 義朗	3	月曜4限
日本語教育学基礎演習	日本語を母語としない日本語学習者とのコミュニケーション	2	島崎 薫	3	火曜5限
日本語教育学基礎演習	日本語教育のための日本語分析2	2	小河原 義朗	4	月曜3限
日本語教育学基礎演習	日本語教育と言語の学習・習得	2	小河原 義朗	4	火曜2限
日本語教育学基礎演習	日本に住む外国人	2	島崎 薫	4	火曜3限
日本語教育学基礎実習	海外インターンシップ	2	島崎 薫	4	集中講義
日本語教育学各論	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	5	集中講義
日本語教育学演習	日本語教育の教材の分析と作成	2	小河原 義朗	5	月曜5限
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークⅠ	2	島崎 薫	5	火曜4限
日本語教育学演習	日本語教育の評価	2	小河原 義朗	5	金曜2限
日本語教育学演習	日本語教育におけるフィールドワークⅡ	2	島崎 薫	6	火曜4限
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	5	水曜3限 水曜4限
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原 義朗	6	水曜3限 水曜4限

科目名：日本語教育学概論

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB32302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育の社会的役割

2・授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語や生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。

3. 学習の到達目標：①日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる
②日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる
③日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 世界と日本の社会と文化
2. 言語政策とことば
3. 日本語教育史
4. 世界と日本の日本語教育事情
5. 日本の在留外国人施策
6. 日本語教師の資質・能力
7. 日本語の試験
8. 日本語教育の現場を知る 1
9. 振り返り 1
10. 日本語教育の現場を知る 2
11. 振り返り 2
12. 日本語教育の現場を知る 3
13. 振り返り 3
14. 日本語教育の現場を知る 4
15. 振り返り 4 + まとめ

※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。

5. 成績評価方法：期末テスト（50%）、各回授業前に提出する事前小レポート（50%）

6. 教科書および参考書：授業内で指定、または配布する。

7. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりして、各回事前小レポートを作成し提出する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB31403, **科目ナンバリング：**LHM-LIN223J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析 1

2・授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を音声・音韻、文字・表記、形態・語彙・意味の観点から分析的に捉える方法を理解、分析し、発音指導・文字指導・語彙指導の具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語教育のための日本語の基礎を理解し説明できる。

(2) 日本語教育の観点から日本語を分析することができる。

(3) 日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語教育のための音声・音韻①
3. 日本語教育のための音声・音韻②
4. 日本語教育のための音声・音韻③
5. 日本語教育のための音声・音韻④
6. 日本語教育のための文字・表記①
7. 日本語教育のための文字・表記②
8. 日本語教育のための文字・表記③
9. 日本語教育のための形態・語彙・意味①
10. 日本語教育のための形態・語彙・意味②
11. 日本語教育のための形態・語彙・意味③
12. 日本語教育のための形態・語彙・意味④
13. 教案作成
14. 模擬授業
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：期末テスト 50%・各回授業前に提出する事前小課題（50%）

6. 教科書および参考書：『日本語教師のための実践・漢字指導』（濱川祐紀代、くろしお出版）、『音声を教える』（国際交流基金、ひつじ書房）、『よくわかる語彙』（秋元美晴他、アルク）、『図解日本語』（沖森拓也など、三省堂）など

7. 授業時間外学習：事前小課題を期日までに提出し、授業に持参すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

日本語教育学概論を履修していること。

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学基礎演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB32503, **科目ナンバリング：**LHM-LIN223J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語を母語としない日本語学習者とのコミュニケーション

2・授業の目的と概要：日本語を母語としない日本語学習者とのコミュニケーションへの理解を深め、円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。論文の講読や講義、他の受講生とのディスカッションをしながら接触場面でのコミュニケーションについて考えるだけではなく、日本語学習者との会話セッションへの参加し、授業で得た知識を実践しながら、教師として求められる対人関係能力や接触場面でのコミュニケーション能力を向上させる。また、多言語・多文化社会、複言語・複文化主義について理解し、異なる文化・言語を持つ人々が共存する社会のあり方を考える。なお、日本語学習者との会話セッションは授業の一部と授業外の時間を使って実施する。会話セッションでの実践や授業での学びを振り返るラーニングジャーナルを毎週 LMS 上で提出し、学生間で相互コメントを行う。

3. 学習の到達目標：①コミュニケーションとは何かを理解し、自分のことばで説明することができる

②異なる文化背景をもつ人々との円滑なコミュニケーションを行うために必要な知識とスキルを理解し、実践することができる

③異なる文化・言語を持つ人々が共存する社会のあり方を考えることができる

④日本語教育を行う上で必要なコミュニケーション能力を向上させることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 コミュニケーションとは
- 3 言語・非言語行動
- 4 異文化受容・適応、日本語学習者との会話セッション
- 5 日本語の学習・教育の情意的側面、日本語学習者との会話セッション
- 6 異文化間能力、日本語学習者との会話セッション
- 7 コミュニケーション能力とは①、日本語学習者との会話セッション
- 8 コミュニケーション能力とは②、日本語学習者との会話セッション
- 9 日本語学習者の日本語①、日本語学習者との会話セッション
- 10 日本語学習者の日本語②、日本語学習者との会話セッション
- 11 日本語母語話者の日本語、日本語学習者との会話セッション
- 12 接触場面でのコミュニケーション、日本語学習者との会話セッション
- 13 コミュニケーションストラテジー、日本語学習者との会話セッション
- 14 共生に向けたコミュニケーションの在り方、日本語学習者との会話セッション
- 15 期末テスト

5. 成績評価方法：毎回の授業後の課題 50%

期末テスト 50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

この授業では、第 2 回目の授業から第 14 回目の授業まで 17:30-18:30 に実施する日本語学習者との会話セッションに参加してもらいます。授業の終了は 18:30 になります。なお、本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：日本語教育学基礎演習

曜日・講時：月曜3限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB41303, **科目ナンバリング：**LHM-LIN223J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育のための日本語分析 2

2・授業の目的と概要：日本語そのものに関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語を文法・語用論の観点から分析的に捉える方法を理解、分析し、文法・語用論の具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語教育のための日本語の基礎を理解し説明できる。

(2) 日本語教育の観点から日本語を分析することができる。

(3) 日本語の分析を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語教育のための文法①
3. 日本語教育のための文法②
4. 日本語教育のための文法③
5. 日本語教育のための文法④
6. 日本語教育のための文法⑤
7. 日本語教育のための文法⑥
8. 教科書分析
9. 模擬授業①
10. 模擬授業②
11. 模擬授業③
12. 日本語教育のための語用論①
13. 日本語教育のための語用論②
14. 日本語教育のための待遇・敬意表現
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：期末テスト 50%・各回授業前に提出する事前小課題 (50%)

6. 教科書および参考書：『みんなの日本語 初級』スリーエーネットワーク、『Situational Functional Japanese 1』凡人社、『にほんごのきそ』(AOTS)、『中間言語語用論概論』(清水崇文、スリーエーネットワーク)、『日本語文法ハンドブック』(庵功雄他、スリーエーネットワーク) など

7. 授業時間外学習：事前課題を期日までに提出し、授業に持参すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

日本語教育学概論、日本語教育学基礎演習（前期）を履修していること。

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学基礎演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB42205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN223J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育と言語の学習・習得

2・授業の目的と概要：談話理解の過程や仕組み、学習を支える記憶の仕組みや学習方法に影響を与える学習環境、言語の習得過程や学習者要因、言語学習の効果を高める方法に関する基本的な知識について理解する。その上で、それらの知識を日本語教育の教材や教室活動と結び付けて捉え、具体的な授業実践について考える。

3. 学習の到達目標：(1)効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程や学習の仕組み、学習の方法について理解する。

(2)個々の学習者に合わせた日本語教育を考えるために、言語の習得過程や学習者要因、また学習効果を高める方略について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 習得過程
3. 習得順序
4. 誤用の捉え方
5. 中間言語
6. 学習者要因
7. 言語学習ストラテジー
8. 自律的学習
9. 言語学習と記憶
10. 学習環境
11. 学習観
12. 理解過程①
13. 理解過程②
14. 理解過程③
15. テスト

5. 成績評価方法：期末テスト 50%・各回授業前に提出する事前小課題（50%）

6. 教科書および参考書：『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（大関浩美、くろしお出版）、『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（小柳かおる、スリーエーネットワーク）、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）、『日本語教育の新たな文脈』（国立国語研究所、アルク）など

7. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

日本語教育学概論・日本語教育学基礎演習（前期）を受講済みであること。

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学基礎演習

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB42302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN223J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本に住む外国人

2・授業の目的と概要：この授業では、日本語学校に通う留学生や技能実習生、外国人介護職員など日本に暮らす多様な外国人について知るとともに、彼らがどのような言語・文化背景をもち、どのような環境にいるのか、そして彼らはどのような問題や課題を抱えているのかについて理解を深めることを目的とする。ゲストを授業に招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外にフィールドワークに出かけたりするなど、実際に日本で暮らす外国人と接したり、実際の現場を訪問したりする活動の中から学ぶ。

3. 学習の到達目標：①日本で暮らす外国人が置かれている現状やその動向を理解し、外国人の受け入れ政策、多文化共生施策について理解を深める

②日本で暮らす外国人の言語・文化的背景、環境の多様性、個性性に対して理解を深める

③文化の多様性を尊重し、異なる文化背景をもつもの同士の円滑なコミュニケーションを実現するために、文化を異にする者の物事の捉え方やコミュニケーションの様相、方略について理解を深める

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 オリエンテーション

2 日本で暮らす外国人に関わる施策、宮城県で暮らす外国人について

3[外国人介護職員]ディスカッションの準備

4[外国人介護職員]ディスカッション

5[外国人介護職員]ディスカッション振り返り

6[外国人技能実習生]会話セッションの準備

7[外国人技能実習生]会話セッション・振り返り①

8[外国人技能実習生]会話セッション・振り返り②

9[外国人技能実習生]会話セッション・振り返り③

10[外国人技能実習生]会話セッション・振り返り④

11[日本語学校留学生]インタビューの準備

12[日本語学校留学生]インタビュー

13[日本語学校留学生]振り返り①

14[日本語学校留学生]振り返り②

15 共生社会に向けて

●それぞれのテーマによって、ゲストを招いてディスカッションやインタビュー活動を行ったり、授業時間外に実際の現場にフィールドワークに出かけたりすることがある。授業時間外に活動した場合はその分の授業を休講とし、調整する。先方とのスケジュール調整により授業内容の順番が入れ替わる可能性がある。詳細は初回の授業で説明する。

5. 成績評価方法：毎回の授業後の課題 50%、ポートフォリオ 50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。また授業外の時間に実際の現場に見学、フィールドワークに行きます。詳細は初回の授業で案内します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

見学やフィールドワークを伴う授業のため、履修者を 10 名までに制限します。日本語教育学専修に所属する学生を優先します。本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：日本語教育学基礎実習

曜日・講時：集中講義

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB98819, **科目ナンバリング：**LHM-LIN228J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：海外インターンシップ

2・授業の目的と概要：長期休業中に2週間海外の日本語教育の現場に行き、どんな日本語学習者が海外の日本語教育の現場で学んでいて、どのような授業が実施されているのかを知るとともに、実際にその現場にTAとして参加したり、日本文化ワークショップを実施することで、教育実践の経験を積む。参加にあたり、個人で達成したい目標、それを達成するための計画を立て、実施する。また、海外の教育現場に行き、自分自身が外国人として現地の文化やことばに触れることで、日本に住む外国人の気持ちや生活環境に寄り添えるマインドを育成する。なお、2025年度は2月または3月に実施する予定である。

3. 学習の到達目標：・海外における日本語学習者、日本語教育、日本語教育の現場の多様性を知る

- ・日本文化ワークショップを目的を定めて企画し、他の学生と協働で実行することができる
- ・インターンの参加に際して自身で目標を決め、それに向かって計画を立てて自律的に実行することができる
- ・異なることばや文化への理解を深めるとともに、外国に滞在することで外国に暮らす人々の困難やチャレンジを知る

4. 授業の内容・方法と進度予定：

顔合わせ：オリエンテーション

事前研修①：インターンシップにおける個人目標の設定、日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修②：現地のことば・文化を知るワークショップ、計画の実施状況の報告、日本文化ワークショップの内容の検討

事前研修③：危機管理セミナー、授業見学について、計画の実施状況の報告、日本文化ワークショップの内容の検討

インターンシップ（2週間）

事後研修：振り返り、学びの共有、報告書・報告会の準備

報告会：インターンシップでの成果の報告

◎詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、日本語教育学研究室内で周知する。

5. 成績評価方法：事前・事後研修参加態度 30%

日本文化ワークショップ企画書 15%

目標設定・計画シート 15%

報告書 40%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成PPT資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

海外インターンシップは、履修人数に制限があります。日本語教育学研究室に所属する学生の履修が優先されます。

科目名：日本語教育学各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：年少者日本語教育

2・授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。

- 3. 学習の到達目標：**1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題（1）
3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題（2）
4. 子どもの生活や学習上の困難点（1）
5. 子どもの生活や学習上の困難点（2）
6. 子どもへの日本語支援の方法（1）受け入れの準備
7. 子どもへの日本語支援の方法（2）サバイバル・日本語基礎
8. 子どもへの日本語支援の方法（3）日本語指導と教科の統合学習
9. 子どもへの日本語支援の方法（4）教科の補習
10. 子どもへの日本語支援体験（1）
11. 子どもへの日本語支援体験（2）
12. 子どもへの日本語支援体験（3）
13. 体験の振り返り
14. 教師の役割
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%

6. 教科書および参考書：文部科学省（2019）『外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業では子どもの支援を実際に行うことを予定しています。しかし、事情によって実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学演習

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB51502, **科目ナンバリング：**LHM-LIN318J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育の教材の分析と作成

2・授業の目的と概要：日本語教育における目的別・対象別教材の分析方法及び教材作成、学習管理や教材作成等に必要な ICT 活用方法、日本語教育活動を行う上で必要となる情報資源の扱い方について理解し、教材例を作成、試行する。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語教育における目的別・対象別教材の分析方法及び教材作成の方法、ツールの活用方法について理解する。

(2) 目的別・対象別日本語教育のための教室活動を考え、教材を作り、試行する。

(3) 日本語教育における著作権について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語教育の教材
3. 教材分析の方法
4. 教材分析①
5. 教材分析②
6. 教材分析③
7. 教材分析④
8. ICT の活用
9. 教材分析⑤
10. 教材分析⑥
11. 日本語教育と著作権①
12. 日本語教育と著作権②
13. 教材作成
14. 教材作成の試行と FB①
15. 教材作成の試行と FB②

5. 成績評価方法：期末レポート（50%）・各回授業前に提出する事前課題（50%）

6. 教科書および参考書：『Jbridge』（小山悟、凡人社）、『できる日本語』（嶋田和子、アルク）、『NEJ』（西口光一、くろしお出版）、『日本語を楽しく読む本』（産能短期大学）、『日本語生中継』（ボイクマン総子他、くろしお出版）オンラインによる国際交流基金日本語教材など

7. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB52403, **科目ナンバリング：**LHM-LIN318J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワーク I

2・授業の目的と概要：この授業では、日本語教育におけるフィールドワークの研究計画の作成、データ収集の方法（インタビュー、観察）について学びます。夏季休業中にデータ収集を行い、後期に開講される「日本語教育におけるフィールドワーク II」で分析、論文の執筆について学びます。

3. 学習の到達目標：①フィールドワークとは何かを説明できる

②先行研究を批判的に検討することができる

③自分の興味関心に合わせて先行研究を参照しながら適切な問いを立てることができる

④目的に合わせて適切なデータ収集方法を実施することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 フィールドワークとは
- 3 フィールドワークを使った研究①
- 4 フィールドワークを使った研究②
- 5 フィールドワークを使った研究③、研究計画の立案①
- 6 フィールドワークを使った研究④、研究計画の立案②
- 7 文献収集の方法
- 8 先行研究の検討①
- 9 先行研究の検討②
- 10 データ収集の方法：インタビュー①
- 11 データ収集の方法：インタビュー②
- 12 データ収集の方法：観察①
- 13 データ収集の方法：観察②
- 14 研究計画の検討
- 15 研究倫理

5. 成績評価方法：授業での課題 50%

最終課題（研究計画書）50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本語教育学演習

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB55205, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語教育と評価

2・授業の目的と概要：日本語能力の評価・試験について理解する。目的別・対象別に日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

3. 学習の到達目標：(1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。

(2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。

(3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインについて理解し、説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

1. イントロダクション
2. 日本語の試験
3. 日本語能力試験
4. 日本語能力観
5. テストによる評価
6. 伝統的評価と代替的評価
7. 受容・理解能力と評価
8. 言語運用能力と評価
9. パフォーマンス評価
10. ルーブリックの作成
11. ルーブリックの試行
12. ポートフォリオ評価
13. 評価方法案の検討
14. 評価方法案の試行
15. まとめ

5. 成績評価方法：期末テスト 50%・各回授業前に提出する事前課題（50%）

6. 教科書および参考書：『日本語教育よくわかる評価法』（伊東祐郎、アルク）、『よくわかる教育評価』（田中耕治、ミネルヴァ書房）、『日本語能力試験』（日本国際教育支援協会・国際交流基金、凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語教育学演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語教育におけるフィールドワークⅡ

2・授業の目的と概要：この授業は、「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」からの継続の授業です。今学期は夏季休業中に収集したデータを分析し、ミニ論文としてまとめます。

3. 学習の到達目標：①フィールドワークで得られたデータを適切に分析することができる
②フィールドで得られた知見を発表やミニ論文の形でわかりやすくまとめることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 データ収集の報告と振り返り
- 3 データの分析方法
- 4 データの分析①
- 5 データの分析②
- 6 分析の検討①
- 7 分析の検討②
- 8 結果執筆の検討①
- 9 結果執筆の検討②
- 10 発表の練習
- 11 発表会①
- 12 発表会②
- 13 発表会フィードバック、論文の形式
- 14 ミニ論文の検討
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業での課題 50%
最終課題（ミニ研究論文）50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

前期に開講された「日本語教育におけるフィールドワークⅠ」を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修条件です。

科目名：日本語教育学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター： 単位数：2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB53311, 科目ナンバリング：, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2・授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力を養い、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように教えるのかを検討する。模擬授業を通して自身の授業デザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができるようになることを目指す。

3. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する

- ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
- ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
- ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：コースデザインとは①
- 第3回：コースデザインとは②
- 第4回：模擬授業
- 第5回：コミュニケーション能力とは
- 第6回：学習者の日本語の習熟度とは
- 第7回：多様な授業内活動①
- 第8回：多様な授業内活動②
- 第9回：多様な授業内活動③
- 第10回：授業準備・模擬授業①
- 第11回：振り返り①、授業準備・模擬授業②
- 第12回：振り返り②、授業準備・模擬授業③
- 第13回：振り返り③、授業準備・模擬授業④
- 第14回：振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
- 第15回：振り返り⑤まとめ

5. 成績評価方法：授業参加態度 30%

授業での課題 30%

最終レポート 40%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。授業外の時間に 2 回程度学内外の授業見学を実施する予定です。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

日本語教育学専修に所属する学生を優先します。

科目名：日本語教育学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗、島崎 薫

コード：LB63306, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2・授業の目的と概要：この授業では、教壇実習に向けてのオリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業を行い、教壇実習後は各実践の振り返りと、コース全体の振り返りを行う。教壇実習は、この授業外の時間で実施されている文学研究科日本語教育学研究室が運営している夜間日本語コースで行う。

3. 学習の到達目標：①コースの目的・目標に合わせた授業をデザインし、単独で教壇に立って授業を実施することができる
②他のチームメンバーと協働してコースを運営することができる
③自身の実践を多角的な観点で振り返り、分析することができる
④他のチームメンバーと一緒にコース全体を振り返り、省察することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 授業準備とその検討①
- 3 授業準備とその検討②
- 4 模擬授業①、コースオリエンテーションの準備
- 5 模擬授業・振り返り①、授業見学
- 6 模擬授業・振り返り②、[夜間]教壇実習①
- 7 教壇実習振り返り①、模擬授業・振り返り③、[夜間]教壇実習②
- 8 教壇実習振り返り②、模擬授業・振り返り④、[夜間]教壇実習③
- 9 教壇実習振り返り③、模擬授業・振り返り⑤、[夜間]教壇実習④
- 10 教壇実習振り返り④、模擬授業・振り返り⑥、[夜間]教壇実習⑤
- 11 教壇実習振り返り⑤、模擬授業・振り返り⑦、[夜間]教壇実習⑥
- 12 教壇実習振り返り⑥、[夜間]教壇実習⑦
- 13 教壇実習振り返り⑦、授業分析①
- 14 実践研修全体総括
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業準備（教案、教材・教具など）20%

模擬授業 20%

教壇実習 20%

授業分析報告書 10%

実習報告書（個人の振り返りレポートを含む）30%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。教壇実習は、この授業外の時間で実施されている夜間日本語コースで実施されます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

○

9. その他：

この授業を履修するには、日本語教育学専修で開講されている日本語教育学概論、日本語教育学基礎演習、日本語教育学演習の全てを履修し、単位を取得している必要があります。